

インフォメーション・コーナー

会 告

○2019年度（第68回）農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて	68
WEB 投稿受付期間 3月1日～4月12日	68
○2019年度（第68回）大会講演会における「企画セッション」の募集について 企画締切 2月8日	70
○2019年度（第68回）大会講演会における「スチューデントセッション」の講演申込みについて	71
WEB 投稿受付期間 3月1日～4月12日	71
○今年もやります！ こりゃ映像！ 2019—ミニ動画コンテスト— 応募締切 7月31日	72
○会費等の「振込手数料」のご送金者（会員様等）負担について 4月1日から	73
○学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集について 応募締切 3月31日	73
○学生会員入会時の特典について	73
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	73
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	74
○2020年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6月30日	74
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	75
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局について	76
○平成30年度京都支部地方講習会・支部研修会の開催について（第1報）	77
○農業農村整備政策研究部会第6回研究集会の開催について	78
○水土文化研究部会第16回研究会の開催について（第1報）	78
○平成30年度農業水利研究部会研究集会の開催について（第1報）	79
農業農村工学会論文集内容紹介	80
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	82
受入れ図書	82
学会記事	83

第87巻第2号予定

展望：龍 尊子

報文：タンザニア国の灌漑地区における農民参加型補修工事の事例：佐藤勝正ほか
付知川用水5号トンネル補強工法試験施工モニタリング：亀蔦正樹ほか
マラウイ国の小規模灌漑農業開発への国際協力における技術の選択：金森秀行
付着藻類の窒素安定同位体比による窒素起源の推定：山崎由理ほか
アジア大陸の気候システムと東アジアの降水窒素濃度：早瀬吉雄
岩石の風化が材料の透水性／せん断強度に与える影響と評価：千原英司ほか
排水機場の維持管理の現状と公益性に関する分析：山口康晴
ドローン搭載のマルチスペクトルセンサを用いた津波被災水田の直播栽培におけるイネの生育モニタリング：

原科幸爾

GISによる青森県内にあるため池堤体材料特性の検証：森 洋ほか
水準器を用いたPC管の継手部曲げ角度の調査手法：小泉和広ほか

技術レポート

北海道支部：国営農地再編整備事業南長沼地区における三次元測定の試行：米田聖護ほか
東北支部：県営十三湖地区農地整備事業における情報化施工の施工事例：花田修一ほか
関東支部：豊川用水初立池における池敷土を有効利用した耐震補強盛土の施工：吉久 寧ほか
京都支部：補修した落差工における著しい摩耗現象に関する研究：瀬川 学ほか
中国四国支部：改良型木工沈床を用いた頭首工改修事例：土屋尾伸太郎
九州沖縄支部：可動堰における水路一体構造堰柱の施工計画：石崎隆弘

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主 催	行 事 名	テ ー マ	開催場所	掲載号	
平成 31 年 1 月 29 日	農業農村整備政策 研究部会	第 6 回研究集会	Ⓟ	東京都	87 巻 1 号	
平成 31 年 2 月 8 日	京都支部	平成 30 年度地方講習会・支部研修会	Ⓟ	金沢市	87 巻 1 号	
平成 31 年 2 月 下旬～3 月上旬	水土文化研究部会	第 16 回研究会	Ⓟ	地方（じかた）well-being !!	東京都	87 巻 1 号
平成 31 年 3 月 9 日	農業水利研究部会	平成 30 年度研究集会	Ⓟ	農業用水管理と ICT（仮）	東京都	87 巻 1 号
2019 年 8 月 27 日	創立 90 周年記念 式典実行委員会	創立 90 周年記念式典	Ⓟ	東京都	Ⓟ	
2019 年 9 月 4～6 日	大会運営委員会	2019 年度（第 68 回）農業農村工学会 大会講演会	Ⓟ	東京都	86 巻 12 号 87 巻 1 号	

2019年度(第68回)農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2019年度(第68回)農業農村工学会大会講演会は、東京農工大学府中キャンパスにおいて2019年9月4日(水)、5日(木)、6日(金)の3日間の開催を予定しています。

この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込みください。今回のご案内は、講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌4月号でお知らせします。

大会講演会の発表申込みはWEB投稿となります。

URLは<http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaiikai/>です。

WEB投稿の受付期間は2019年3月1日(金)～4月12日(金)とします。

1. 講演要領

- (1) **講演資格**: 代表発表者は、本学会会員に限りま。講演申込み受付の際、会員番号を確認します。この機会に入会される場合は、学会ホームページの入会手続き(http://www.jsidre.or.jp/about_member/)をご参照願います。
- (2) **講演内容**: 学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受け付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**: 12部門あります。ただしプログラム編成上、希望部門が変更される場合があります。
- (4) **講演方法**: 原則として、1人(共同研究の場合は代表発表者)1課題とします。ただし、企画セッションと個人発表の各1件ずつの発表は認めます。個人発表者が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められません。
- (5) **発表形態**: 発表形態として「口頭発表」か「ポスター発表」のどちらかを投稿時に選んでください。
 - ①「口頭発表」: 各部門の講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形

式、②「ポスター発表」: 講演会場とは別のポスター展示会場において、会期中ポスターを展示するとともに、コアタイムと呼ばれる決められた時間帯にポスターを使って発表する形式。なお、プログラム編成上、やむを得ず発表形態が変更される場合があります。変更に応じられない方はあらかじめ投稿票の「変更諸否」で「否」を選んでください。プログラムならびに発表形態、ポスターの大きさなどについては、学会ホームページで6月末までにお知らせします。

- (6) **講演時間**: ①口頭発表は1課題15分(質疑時間も含む)です。また、企画セッションは1セッション100分です。②ポスター発表では、会期中にコアタイムを確保します。
- (7) **要旨集**: (2)にあてはまるすべての原稿をCD-ROM版講演要旨集に集録します。
- (8) **概要集**: WEB投稿時の入力情報のうち、講演題目、発表者所属、氏名、講演概要(200字以内)を、概要集に集録します。200字を超えるものについては、文章を割愛させていただきます。

2. 投稿要領

- (1) WEBから新規登録を行い、講演原稿のアップロード、および申込料2,160円(税込)の納入をもって申込みとみなします。振替用紙には必ず『大会講演申込料』、氏名、所属を記載してください(郵便振替用紙は、本誌2月号巻末に綴じ込み)。年会費等をまとめて支払う場合には内訳も記載してください。なお、送金後に発表を取り消されても、申込料の返金はできません。送金済みの振替の控えをPDF以外の画像データとして、WEB登録画面から送信してください。
- (2) 講演原稿は、図・表・写真などを含め1課題2ページとします。後述の「3.講演原稿の書き方」に従い、執筆して

ください。

- (3) CD-ROM 版講演要旨集の作成に伴い、講演原稿のファイルはPDF形式でのアップロードとします。

- (4) 講演原稿PDFファイルは、半角ローマ字表記の代表発表者名(姓名)としてください(例:「nougou tarou.pdf」)。

- ・ Acrobat Distiller または Acrobat PDF (アドビシステムズ社: Adobe Acrobat に付属) を使用し、すべてのフォントの埋込みをして変換したPDF (Portable Document Format) ファイルとしてください。
- ・ PDF ファイルに、セキュリティ(文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更)の設定をしないようにしてください。

- (5) 受付期間: 2019年3月1日(金)~4月12日(金)
(遅延・原稿差替えは不可)

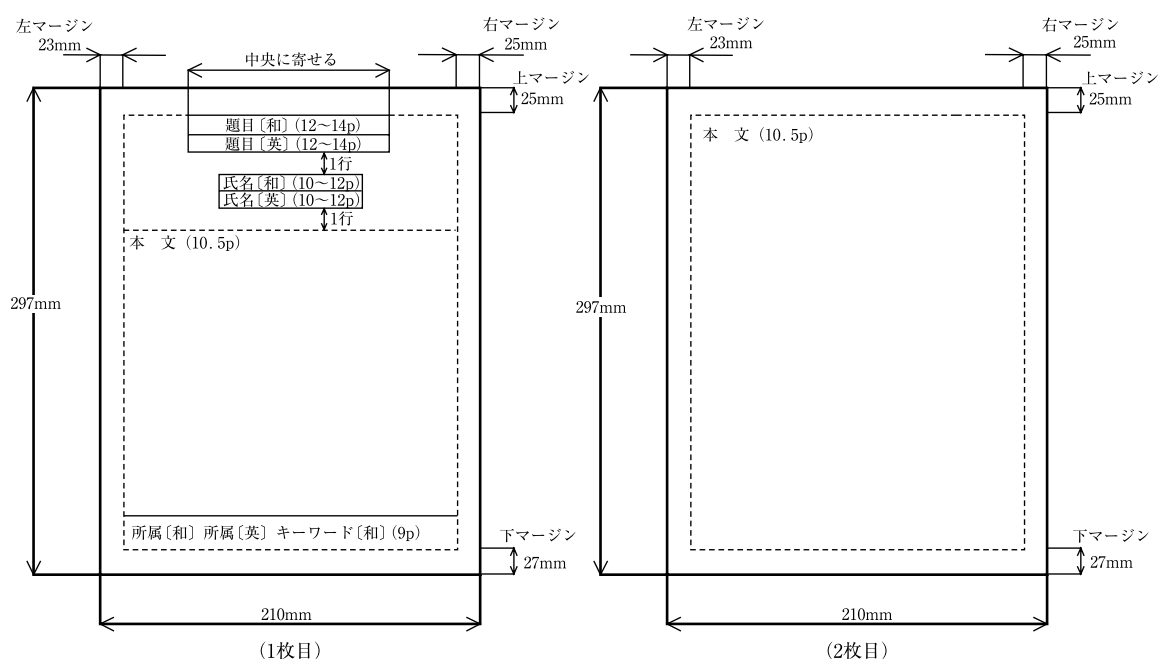
(6) 問合せ先

(公社)農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: zenkokutaiikai@jsidre.or.jp
郵便振替: 00160-8-47993
加入者名: 公益社団法人農業農村工学会
銀行振込: みずほ銀行 新橋支店
普通預金 1167243

3. 講演原稿の書き方

- (1) 用紙サイズは、A4判(横210mm、縦297mm)で、マージンは次のようにしてください(下図参照)。

上: 25mm, 下: 27mm, 左: 23mm, 右: 25mm



(2) 書式

- ① 文字: 文字は、10.5ポイント以上としてください。標準フォントとして、MS明朝、MSゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使いください。特殊なフォントは極力使わないでください。また、機種依存文字(①, ②, … I, II, …等)も使わないでください。上下左右のマージン内いっばいに、1行40字、1ページ40行、横書きを標準として印字してください。ワープロソフトによりこの組合せができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにしてください。
- ② 題目・所属・氏名・本文: 本文原稿の題目は、1ページ目の第1行と第2行に中央に寄せ、12~14ポイントで和英併記してください。講演者氏名は、第4行と第5行に中央に寄せ、10~12ポイントで和英併記してください。また、連名の場合には代表発表者の前に必ず○印をつけてください。

所属は、1ページ目の本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9ポイントで1行に和英併記してください。所属に続けてキーワード〔和〕(キーワード表参照)を書いてください。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に*や**を付けて、講演者と所属が対応するようにしてください。

本文は、第7行から書き始めてください。2ページ目は第1行から書いてください。

- ③ 図・表・写真: 本文とともに原稿用紙内に書き込み(あるいは貼り込み)、幅いっばいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにしてください。また、図表の表題にも英語を併記してください。

キーワード表

1. 水 理	2. 水文・水質・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 水産土木	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応 用 力 学	6. 材 料・施 工	7. 灌 漑 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリー 砂漠化 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境 保 全	11. 生 態 環 境	12. 農業土木教育・農業情報
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農村景観	環境保全 環境影響評価 水環境 大気 土壌 物質循環 地球環境	生態系 生物多様性 緑地 親水 ビオトープ 環境教育	農業土木カリキュラム 教育改善・FD 教育手法 技術者育成 継続教育 測量・GIS リモートセンシング IT インターネット

4. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権、コピーライト）は、（公社）農業農村工学会に帰属します。また、

講演の概要等は科学技術振興機構（JST）に提供されます。

なお特許等の出願にかかる新規性の確保は講演者の責任で行ってください。

2019 年度（第 68 回）大会講演会における「企画セッション」の募集について

2019 年度（第 68 回）大会講演会（9 月 4～6 日、東京農工大学府中キャンパス）における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はご応募ください。

企画セッションの利用としては、各種プロジェクトの成果発表、特定テーマに関する最新情報の紹介等を想定していますが、会員の皆様の自由な発想で企画セッションを活用してください。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとします。

企画の申込締切は 2 月 8 日（金）です。お申込みに当たって、下記事項を学会事務局（zenkokutikai@jsidre.or.jp）まで E-mail にてお知らせください。

- 1) 企画セッションのタイプ:「クローズド・タイプ」または「オープン・タイプ」

2) 企画セッションのテーマ

3) オーガナイザーの氏名, 所属, 連絡先電話, E-mail

4) 企画セッションの概要 (200 字以内)

なおセッション数の関係上, 応募されたすべての企画セッションが採用されるとは限りません。また類似した企画が提案された場合, あるいは, 研究部会主催のシンポジウム等が別に企画されている場合, 調整をお願いすることがあります。企画の採否については, 研究委員会よりお知らせします。

「企画セッション」は, 特定のトピックについて, 原則 100 分間のセッションを, オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は, 通常の発表スタイルはもちろん, パネルディスカッションや会場の聴衆を含めた討論方式等も可能です。ただし, セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも, 最低 2~3 名以上の発表があることが前提です。なお, セッションの演者は会員であることを要しませんが, 大会参加費のお支払いは必要です。

企画セッションでの発表者は, 企画セッションと個人発表の各 1 件ずつの発表は認めますが, 個人発表者が複数の企画セッションで発表することは, プログラム編成上の理由から認められませんので各オーガナイザーは発表者選定に当たり, この点に十分留意してください。

なお, 企画セッションも要旨集に講演内容を掲載します。オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。

各企画セッションの申込料は, 講演題数にかかわらず一律 12,960 円 (税込) となります。

今後のスケジュールは, 以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切

2 月 8 日 (金)

2. 研究委員会で採否決定後, 応募テーマの採否の決定通知

2 月 22 日 (金) 頃

3. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始 (発表希望者は各オーガナイザーに直接申し込む)

3 月 8 日 (金) 頃

4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切

3 月 22 日 (金)

5. セッションの講演要旨原稿の提出締切

4 月 12 日 (金)

申込み・問合せ先

(公社)農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3 階

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : zenkokutaiikai@jsidre.or.jp

2019 年度 (第 68 回) 大会講演会における「スチューデントセッション」の講演申込みについて

2019 年度 (第 68 回) 農業農村工学会大会講演会は, 東京農工大学府中キャンパスにおいて 2019 年 9 月 4 日 (水), 5 日 (木), 6 日 (金) の 3 日間の開催を予定しています。

この大会講演会では, 学生会員における講演発表の経験の場として, また全国の学生会員の学術交流をはかる場として, 学生会員を対象にしたスチューデントセッションが設けられます。スチューデントセッションで講演発表を行いたい学生会員の方は, 下記要領により, ふるってお申し込みください。今回のご案内は, スチューデントセッションにおける講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は, 学会誌 4 月号でお知らせいたします。

大会講演会の発表申し込みは WEB 投稿となります。

URL は <http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaiikai/> です。

WEB 投稿の受付期間は 2019 年 3 月 1 日 (金) ~ 4 月 12 日 (金) とします。

1. 講演要領

(1) 講演資格: 代表発表者は, 本学会の学生会員もしくは, 発表時点で学部を卒業あるいは大学院を修了後 1 年以内の会員に限りま。講演申込み受付の際, 会員番号を確認します。この機会に入会される場合は, 学会ホームページの入会手続き (http://www.jsidre.or.jp/about_member/) をご参照願います。

(2) 講演内容: スチューデントセッションでの講演内容は, 一般セッションの講演のようにまとめたものでなく, 博士論文, 修士論文, 卒業論文として取り組んでいる研究の途中結果や展望であってもかまいません。また国営事業地区等フィールド調査学生支援事業の成果報告等も歓迎します。ただし, 発表には指導教員の同意を要します。

(3) 講演部門: 一般セッション (個人発表, ポスター発表) および企画セッションとは別のスチューデントセッションでの講演になります。

(4) 講演方法: スチューデントセッションでの発表は, 1 人 (共同研究の場合は代表発表者) 1 課題とします。ただし, 「一般セッション (個人発表, ポスター発表) あるいは企画セッション」と「スチューデントセッション」での各 1 件ずつの発表は認めます。

(5) 発表形態: 発表形態は, 口頭発表 (講演会場において, パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式) に限ります。

(6) 講演時間: 口頭発表は 1 課題 9 分 (発表 5 分 + 質疑応答 4 分) です。 (講演数により変更する場合があります。)

(7) 要旨集: (2) にあてはまるすべての原稿を講演要旨集に集録します。

- (8) **概要集**: WEB 投稿時の入力情報のうち、講演題目、発表者所属、氏名、講演概要(200字以内)を、概要集に集録します。200字を超えるものについては、文章を割愛させていただきます。

2. 投稿要領

- (1) スチューデントセッションにおける**講演申込料は無料**です。
- (2) WEB から新規登録を行い、講演原稿のアップロードをもって申込みとします。
- (3) 講演原稿は、図・表・写真等を含め**1課題2ページ以内で1ページでも可**とします。本誌68ページの「**2019年度(第68回)農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて 3. 講演原稿の書き方**」に従い、執筆してください。
- (4) CD-ROM 版講演要旨集の作成に伴い、講演原稿のファイルはPDF形式でのアップロードとします。
- (5) 講演原稿PDFファイルは、半角ローマ字表記の代表発表者名(姓名)としてください。(例:「nougou tarou.pdf」)。
・ Acrobat Distiller または Acrobat PDF (アドビシス

テムズ社: Adobe Acrobat に付属)を使用し、すべてのフォントの埋込みをして変換したPDF (Portable Document Format) ファイルとしてください。

- ・ PDF ファイルに、セキュリティ(文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更)の設定をしないようにしてください。

- (6) **受付期間: 2019年3月1日(金)~4月12日(金)**
(遅延・原稿差し替えは不可)

- (7) 問合せ先

(公社)農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: zenkokutaikai@jsidre.or.jp

3. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権(著作財産権、コピーライト)は、(公社)農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構(JST)に提供されます。なお特許等の出願にかかる新規性の確保は講演者の責任で行ってください。

今年もやります! こりゃ映像! 2019—ミニ動画コンテスト—

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. **応募締切** 2019年7月31日(水)17時
2. **動画の制限時間** 60秒以内
3. **2019年度のテーマ** (未定)
4. **応募資格** なし(どなたでも応募できます)
5. **応募方法** 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. **審査方法** 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. **賞金** 最優秀賞(1作品)2万円
優秀賞(2作品)各1万円
8. **アップロード方法**
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTubeにアップロードする(9. 参考資料を参照)。
 - ③ タグに3つのワード(jsidre2018, こりゃ映像, (テーマ未定))を入れる。
 - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT(new-suido@jsidre.or.jp)宛にメールで送る。
入賞賞金をお渡しするのに必要な情報(氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube動画のURL)

9. 参考資料

- ・ YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
 - ・ スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>
 - ・ 【2017年版】Youtube(ユーチューブ)に動画をアップロードする方法
<https://www.youtube.com/watch?v=O1slFYR0KIY>
 - ・ 動画作成のヒント(超かんたん動画投稿法)
<https://www.youtube.com/watch?v=eq5PUALLukk>
- <参考>こりゃ映像2018 結果(テーマ:私のかんがい施設遺産)
最優秀賞:万葉のゆたかな水の里 下八ヶ佐加野用水
富山県土地改良事業団体連合会 竹沢良治
高岡市土地改良区 北川 孝
<https://www.youtube.com/watch?v=b2NvJysXFOo>
優秀賞:田の下の力持ち、府中用水
東京農工大学大学院 国際環境農学専攻 岩本智寛
https://www.youtube.com/watch?v=fy0NadQy_gQ

会費等の「振込手数料」のご送金者（会員様等）負担について

ゆうちょ銀行の手数料値上げに伴い、従来学会負担としていた「振込手数料」について、平成31年4月1日からすべての「振込手数料」をご送金者（会員様等）の負担とさせていただきます。皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。

【主な対象となる振込手数料】

- ① 会費
- ② CPD 利用料
- ③ 農業農村工学会大会講演会の講演発表等の申込料 など

学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集について

学会誌企画・編集委員会では、学生向けの企画などを担当していただく学生委員を募集いたします。

募集要領は次のとおりです。ふるってご応募ください。

1. 応募資格

- (1) 学生会員であること。（応募時に入会可。）
- (2) 年4回程度開催の委員会（東京都港区新橋にて開催）に出席できること。（旅費を支給します。）
- (3) E-mail, Web が使える環境にあること。
- (4) 指導教官の承認を得ること。

2. 任 期 平成31年4月から最長で2年。卒業、就職等で途中退任も可。

3. 募集人数 2名。

4. 応募締切 平成31年3月31日（日）

5. 応募方法

下記①～⑧を記入の上、henshu@jsidre.or.jp までメールでお送りください。

①会員番号、②氏名、③大学名、④平成31年4月からの学年、⑤年齢、⑥承認を得た指導教官名、⑦連絡先メールアドレス

6. 問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット（ハンドブック＋用語事典＋初年度会費）に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット

（ハンドブック＋用語事典＋初年度会費）

学部生 17,000円（15,750円）

大学院生 19,500円（16,750円）

②必携3点セット

（必携＋用語事典＋初年度会費）

学部生 7,000円（5,750円）

大学院生 10,000円（7,250円）

③2点セット

（用語事典＋初年度会費）

学部生 5,000円（3,750円）

大学院生 8,000円（5,250円）

（ ）内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）

用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先 （公社）農業農村工学会 図書係

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとな

り、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動

に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 1 月号掲載の問題は 2 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録

（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2020 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2020 年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 88 巻（2020 年 1～12 月号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4 サイズも含みます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 春季 2019 年 6 月 30 日

夏季 2019 年 9 月 30 日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りです。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第88巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2020年度大会講演会会場でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文（500字程度）をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用权・出版権

採用作品の使用权および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/>）

journal/）に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第87巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
第87巻第3号 豊川用水通水50周年（仮）	公募なし
4号 農山漁村地域の再生可能エネルギーの導入における取組み事例と地域貢献（仮）	公募終了
5号 常態化する大規模災害とリスクマネジメント（仮）	公募終了
6号 レジリエンス研究と農業農村工学（仮）	1月20日
7号 大会特集号（関東支部）	公募なし
8号 農村地域における生活環境整備の現状と今後の対応策（仮）	3月20日
9号 農地集積8割の達成後、農村はどのように変化していくのか（仮）	4月20日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

第87巻第6号テーマ「レジリエンス研究と農業農村工学」（仮）

これまで、事故や災害などの危険に対する備えとして、発生確率に基づくリスクとリスクマネジメントにより、我々は暮らしの安全を高めてきました。しかし、近年の「想定していない規模の災害」の多発を契機に、より高次のレベルでの安全や安心が求められてきています。そのひとつがレジリエンス研究と

言われるものです。

レジリエンスという言葉を正確に理解しようとする、「想定を超えるような外乱が加わった場合であっても機能を大きく損なわない、損なったとしても早期に機能回復できるシステムの能力」という表現が最も理解しやすいのではないでしょう

か。

大規模災害が多発するわが国において、安全で安心な経済活動や社会生活を継続させるためには、農業農村工学に係るハード・ソフトの研究に加え、新たにレジリエンス研究との連動を模索する必要があると考えます。たとえば、土地改良区が主体となる事業継続計画（BCP：Business Continuity Plan）の策定などの取組みは、多様化する社会環境において、農業水利施設の災害時のリスクの軽減を図るとともに、早期に農業水利システムおよび農地の機能回復を図ることにより、農業生産活動を早期に再開することを目的としており、社会実装レベルまで進んでいるレジリエンス活動と捉えることができます。

第87巻第8号テーマ「農村地域における生活環境整備の現状と今後の対応策」（仮）

農村地域における生活環境の整備は、農業農村整備が大きく担っています。戦後まもなく取り組まれた農道整備事業を端緒に農村基盤総合整備パイロット事業、農村総合整備モデル事業から今日の農村集落基盤再編・整備事業までの環境整備により、農村地域生活環境の整備水準は都市部地域と遜色ない、あるいはそれを凌駕するまでに至っています。

一方で、道路や水路、農業施設など整備が大きく進んだ1970年代から50年近くを経てそれら生活環境施設の老朽化は進んでいます。加えて、その間に並行してきた過疎化・高齢化などで一部の農村地域では生活空間の縮退も生じており、農村地域生活環境の内容は大きな局面に差し掛かっています。

第87巻第9号テーマ「農地集積8割の達成後、農村はどのように変化していくのか」（仮）

国は新たな土地改良長期計画（平成28～32（2020）年度）に基づき、2023年までに担い手が利用する農地面積が全農地面積の8割を占める政策目標を掲げ、農地集積を推進しています。こうした中で、農地中間管理機構が創設され5年経過し、同機構を活用した集積協力金交付事業や機構関連農地整備事業等のさまざまな事業により、すでに5割以上の農地が担い手へと集積されています。

しかし、農地集積の推進とともに離農が進み、土地持ち非農家の増加と農家の高齢化により、農地や農業用水といった地域資源の維持管理作業への参加者が減少しています。このため、とりわけ水管理や畦畔の草刈りなどの作業にかかる担い手への負担が過度に集中し、労力・時間的な制約から、一定以上の農

業農村工学分野の研究とレジリエンス研究の連携には、概念の体系化、シミュレーションによる分析、レジリエンス評価といった、レジリエンス実現のための要素技術を含めさまざまな課題を整理していく必要があります。

そこで本小特集では、レジリエンスを強化するような農業農村工学の取組み事例や課題・知見について、技術者・研究者・行政などのさまざまな立場からご紹介を頂き、情報共有のみならず、当分野の積極的な関与と今後の展開を図るための手がかりとなることを目的とします。学会誌「水土の知」掲載の報文として広く皆様から原稿を募集いたします。

今後、人口減少や少子高齢化を背景にして、農村地域社会のドラスティックな構造的変化が予想される中、生活環境の整備の在り方も大きく変わってくるものと考えられます。集落の再編に伴う生活環境施設の統合、田園回帰や二地域居住など交流人口を踏まえた環境整備、上下水道と農業用水・集落排水の一体的な管理など、これまでの生活環境整備の範疇^{はんちゆう}では収まり切れない整備課題が想定されます。

本小特集では、現代の農村地域が抱えている生活環境の実態と課題、今後の農村地域社会の変貌を想定した新たな生活環境整備や維持管理の考え方など、生活環境施設に焦点を絞った農業農村整備の展開方向につながる報文を募集します。

地の集積・集約化のペースが減速しています。

他方、このような制約を経営の複合化、多角化、他業種との連携などによりブレイクスルーし、100haを超えて経営規模を拡大する農業経営体が、平地に限らず中山間においても出現しています。同時に、このような地域では水管理や生産管理のあり方が従来と異なっており、農業経営体とムラ社会の関わり方についても、大きな変化が生じていると考えられます。

本小特集では、このように大きく農地集積が進んだ地域において、農業の構造的な変化に対応するための基盤整備や基盤データを活用した情報アプリなどを利用した営農の取組み、また地域社会の維持にかかる課題やその対策などについて、広く報文を募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering：PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者

のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017年のインパクトファクター（IF）は過去最高の1.379となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次

のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理，水収支，灌漑施設，栽培管理）
- ② 排水（排水管理，排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良，土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発，水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節，地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生，陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理，地すべり，気候変動，災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

また，世界 14 カ国から Editor（18 名）を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は，Review，Article，Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

一方，2018 年 7 月から，新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ **Editor-in-Chief : Dr. Takao MASUMOTO** (Japan)
Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan
- ・ **Editors** 14 カ国から 19 名
- ・ **Editorial Advisors** 30 名
- ・ **Chief Managing Editor**
Dr. Kimihito NAKAMURA
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
- ・ **Managing Editors**
Dr. Jin-Yong CHOI
Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea
Dr. Inhong SONG
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Hiroshi IKEURA

Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Science (JIRCAS),
Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata
University, Japan

編集事務局（2018 年 7 月から 2020 年 6 月まで）

・ Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502,
JAPAN

TEL : + 81-75-753-6156

FAX : + 81-75-753-6476

E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp

投稿先：オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格：筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等： <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール：年 4 回（オンラインジャーナル）

購読料：正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員（院生含む）8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は，まず農業農村工学会にご入会の上，お申し込みください。

なお，オンラインジャーナルへの完全移行に伴い，2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上，お申し込みください。

平成 30 年度京都支部地方講習会・支部研修会の開催について（第 1 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



京都支部では，以下のテーマで講習会・研修会を開催します。多数のご参加をお待ちしております。

1. 日 時 平成 31 年 2 月 8 日（金）10：40～16：30
（受付 10：00～）
2. 場 所 石川県教育会館 3 階 ホール
〒920-0918 石川県金沢市香林坊 1-2-40
TEL：076-222-1241

3. 地方講習会（11：00～12：00）

- ・ 土地改良施設管理基準—用水機場編—の改定について
農林水産省農村振興局整備部水資源課 水上 徹

4. 支部研修会（13：00～16：30）

- ・ 農業・農村政策の課題と展開方向（仮題）
前農林水産省農村振興局長 荒川 隆
- ・ ため池の被災事例と簡易氾濫解析手法について

農研機構農村工学研究部門施設工学領域 正田大輔
・水田が有する多面的機能を活用した地域防災の取組み
(一社)農村振興センターみつ 椿 一雅

5. 参加申込み

下記様式により、E-mail、FAX または郵便にてお申し込みください。(参加申込書は8. の京都支部ホームページからダウンロードできます。)

所属機関名:		
同上所在地:		
申込代表者名:		TEL:
氏 名	所 属	備 考

参加申込締切は平成31年1月25日(金)です。

6. 参加申込先

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577
三重大学生物資源学研究所内
農業農村工学会京都支部事務局 担当: 渡辺晋生
E-mail: kunio@bio.mie-u.ac.jp
TEL: 059-231-9583 FAX: 059-231-9634

7. 参加費用

2,000 円(当日会場にて申し受けます。)

8. その他

農業農村工学会京都支部ホームページにも開催案内を掲載しますので、どうぞご参照ください。

<http://jsidre.or.jp/kyoto/>

農業農村整備政策研究部会第6回研究集会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業農村整備政策研究部会は、農業農村整備政策を進化・発展させるため、行政関係者と研究者などが日々の成果を発表する研究集会を年1回開催することとしております。ついては、下記の要領で、第6回の研究集会を開催することといたしました。

目まぐるしく移り変わるわが国経済社会に対応した農業農村整備政策の推進は、わが国農業の基盤強化と豊かな農村の実現にとって急務です。研究者や行政関係者などの皆様が是非この研究集会に奮って参加していただき、農業農村整備政策の進化・発展に寄与していただければ幸いです。

1. 日 時 平成31年1月29日(火) 15:00~18:00
2. 場 所 東京大学農学部7号館A棟1階 114/115教室
〒113-8654 文京区弥生1-1-1
(東京メトロ南北線「東大前駅」下車 徒歩3分)

3. プログラム

- ① 開会挨拶 飯田部会長
- ② 発表

6名程度の発表を予定しております。発表者・テーマ

が決まり次第部会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/seibiseisaku/>)に掲載いたします。

③ 講評

④ 閉会挨拶 武井副部会長

4. 懇親会

研究集会終了後、キャンパス内(東大生協 農学部3号館内生協食堂)にて18時15分から簡単な懇親会(会費:1人2,500円程度)を開きます。参加者は事前に申し込みください。

5. 参加申込み

参加ご希望の方は、1月21日(月)までに下記の部会事務局に、①氏名、②所属、③連絡先(電話、E-mail)、④懇親会の出席予定(会費は当日徴収)をE-mailにてご連絡ください。研究集会の参加費は無料です。

なお、第6回研究集会は、CPD申請プログラムに申請予定です(申請書は当日配布させていただきます)。

6. 問合せ・参加申込み先

農業農村整備政策研究部会事務局 桑田利明
E-mail: seisaku-bukai@jsidre.or.jp

水土文化研究部会第16回研究会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



人類史上かつてない急激な高齢化・人口減少を迎えるわが国。従来のような成長が前提ではありえない近未来を、有限の資源を賢く活用し新たな発想で切りひらいていかななくてはならない。

人口のみならず社会全体の縮小化とエイジングを巧く乗りこなし、誰もが自分らしく健やかに生きること、well-beingの実現を目指すことが重要ではないか。その際、農村地域では何が大切な、何ができるのか、何が必要か。

地方でのwell-being/地方自体のwell-beingについて考えてみたい。

1. テーマ ^{じかた} 地方 well-being!!
2. 日 時 平成31年2月下旬~3月上旬(調整中)
13:00~16:00
決まり次第、部会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/suidobunka/>)でお知らせするとともに本誌2月号に掲載します。
3. 場 所 農業土木会館会議室(調整中)
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
TEL: 03-3434-0461
4. プログラム

講演：

「地方 well-being !!」 京都大学大学院地球環境学学教授
食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部長

渡邊紹裕

コメンテーター：筑波大学研究員・法政大学講師 堀川洋子
農林水産省農村振興局設計課計画調整室長

石井克欣

農研機構農村工学研究部門地域資源工学研究領域

地域エネルギーユニットユニット長 後藤真宏

パネルディスカッション：講演者＋コメンテーター

コーディネーター：水土文化研究部会 広瀬 伸

5. 参加料 無料

6. 申込み・問合せ先

〒305-8609 茨城県つくば市観音台 2-1-6

農研機構農村工学研究部門 地域資源工学研究領域

地域エネルギーユニット ユニット長 後藤真宏

TEL：029-838-7548 FAX：029-838-7609

E-mail：griese@affrc.go.jp

平成 30 年度農業水利研究部会研究集会の開催について（第 1 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業水利研究部会では、平成 30 年度農業水利研究部会研究集会を下記のとおり開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

1. 日 時 平成 31 年 3 月 9 日（土）14：00～17：00

2. 場 所 東京農業大学世田谷キャンパス

東京都世田谷区桜丘 1-1-1

最寄駅：小田急線経堂駅下車 徒歩 15 分

3. テーマ 農業用水管理と ICT（仮）

4. 題目および講演者

水田灌漑での ICT 利活用の状況と課題（仮）

東京大学 飯田俊彰

ICT を活用した稲作水管理の省力化技術と評価手法

農研機構農村工学研究部門 坂田 賢

水管理システムの自動化・知能化（仮）

農林水産省関東農政局 進藤惣治

5. 参加費 500 円（予定）

6. 参加申込みおよび問合せ先

農業水利研究部会事務局

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350

宇都宮大学農学部農業環境工学科 松井宏之

TEL&FAX：028-649-8638

E-mail：matsuih@cc.utsunomiya-u.ac.jp

資格試験のための 農業農村工学必携 第二版

公益社団法人 農業農村工学会 編

本書の初版は「改訂七版 農業農村工学ハンドブック（平成 22 年発行）」をコンパクトに再編集し、平成 24 年 6 月に発行いたしました。

資格試験に挑戦する人にとっては農業農村工学の全容を短時間で確認するテキストとして、また、農業農村工学を学ぶ学生にとっては教科書として利用できるものです。

第二版は、初版で要所に挿入されていた「確認テスト」を最近の資格試験問題の動向に合わせて増補更新し、「テキスト」と「問題集」の分冊形式としています。

是非ともご購入の上、お役立てください。

主要目次

[テキスト]

本編

第 1 部 農業農村工学概説

第 2 部 農業農村の整備計画

第 3 部 設計・施工

第 4 部 管理

第 5 部 事業の施行

基礎編

第 1 部 数学・情報

第 2 部 土

第 3 部 水

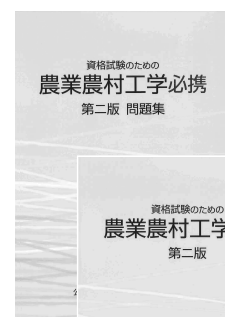
第 4 部 基盤

第 5 部 農業・環境

第 6 部 社会

索引

[問題集]



体裁：B5 判 約 520 ページ

定価：2,777 円（税込）

送料：1 セットにつき 200 円

発行：公益社団法人 農業農村工学会

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494 E-mail：suido@jsidre.or.jp

学会ホームページ：http://www.jsidre.or.jp/